令和７年度第１回
佐賀県環境放射能技術会議
資料 1-3

令和６年度温排水影響調査結果

令和７年５月 19 日

佐賀県玄海水産振興センター

表1 調査実施状況

項目	調査月日	内容	調査点数	観測層	調査方法および使用機器	摘要
拡散調査	7月18日 3月12日	水温 塩分	74	水温：0.3(表層), 1,2,3,4,5,7,10, 15,20m 塩分：0.3(表層)m	・水温、塩分：多項目水質計による現場測定 （JFEアドバンテック社 ASTD102）	図2-1～4 図3-1～4
流動調査	8月7日	流向 流速	5	0.3(表層),5,10, B-1(底層)m	・流向・流速計による現場測定 （JFEアドバンテック社 AEM213-D型）	表3 図4
水質調査	9月3日 2月15日	水温 pH DO 濁度 ｸﾛﾛﾌｨﾙｰa	5	0.3(表層),5,10, B-1(底層)m	・ナンセン転倒採水器による採水 ・水温、DO、濁度：多項目水質計 による現場測定 （JFEアドバンテック社 ASTD102） ・pH：卓上測定器による測定 （HORIBA社 卓上pH計） ・クロロフィルーa：蛍光法	表4-1～2 図5-1～2
底質・底生生物調査	8月26日	粒度組成 COD ベントス	10	海底土	・スミス・マッキンタイヤ採泥器による採泥 ・粒度組成：ふるい分け法 ・COD：アルカリ性法 ・ベントス：マクロベントスについて 定量・同定	表5 図6 図7
付着生物調査	7月19日 20日 21日 8月17日 1月30日 31日 2月1日 15日	動物 植物	10	潮間帯	・ベルトトランセクト法 岸側各点から海方向にメジャーを伸ばし、 1.5 m毎に50 cm枠の中の種類、数量（被度）を調査	表6-1～2 図8-1～2

表 2 拡散調査における出力及び環境等の状況

九州電力資料

［夏　季］			拡散調査	
			下げ潮時	上げ潮時
調査年月日			令和6年7月18日	
調査時間			11:06～12:23	14:21～16:09
出力	1号機	MW	－	－
	2号機	MW	－	－
	3号機	MW	1,206～1,207	1,192～1,193
	4号機	MW	1,205～1,208	1,190～1,192
取水口水温	1、2号機	℃	27.7～27.9	28.2～28.6
	3、4号機	℃	25.4～25.8	24.9～26.0
放水口水温	1、2号機	℃	26.2	26.3～26.5
	3、4号機	℃	32.0～32.3	31.6～32.6
取放水口水温差	1、2号機	℃	-1.5～-1.7	-1.9～-2.3
	3、4号機	℃	6.4～6.6	6.6～6.7
気象海象等	風向・風速	m／s	SW～SSW・5.4～4.8	SW～SSW・6.3～7.5
	月齢※1	日	12.2	
	潮位※2	m	0.7～0.9	0.6～1.0
	気温	℃	30.4～31.2	30.6～31.2
	塩分※3		30.9～32.0	31.1～32.1

［冬　季］			拡散調査	
			下げ潮時	上げ潮時
調査年月日			令和7年3月12日	
調査時間			12:27～13:39	15:42～16:48
出力	1号機	MW	－	－
	2号機	MW	－	－
	3号機	MW	1,207～1,209	1,206～1,207
	4号機	MW	1,195～1,197	1,197
取水口水温	1、2号機	℃	12.8	12.8
	3、4号機	℃	12.7	12.8
放水口水温	1、2号機	℃	12.9～13.0	12.8
	3、4号機	℃	19.5～19.7	19.5～19.8
取放水口水温差	1、2号機	℃	0.1～0.2	0.0
	3、4号機	℃	6.8～7.0	6.7～7.0
気象海象等	風向・風速	m／s	W・2.4～3.3	WSW～SW・1.6～2.3
	月齢※1	日	12.1	
	潮位※2	m	0.6～1.1	0.7～1.0
	気温	℃	13.3～13.4	13.2～13.5
	塩分※3		34.2～34.6	34.0～34.5

※1：国立天文台天文情報センター
※2：気象庁
※3：玄海水産振興センター

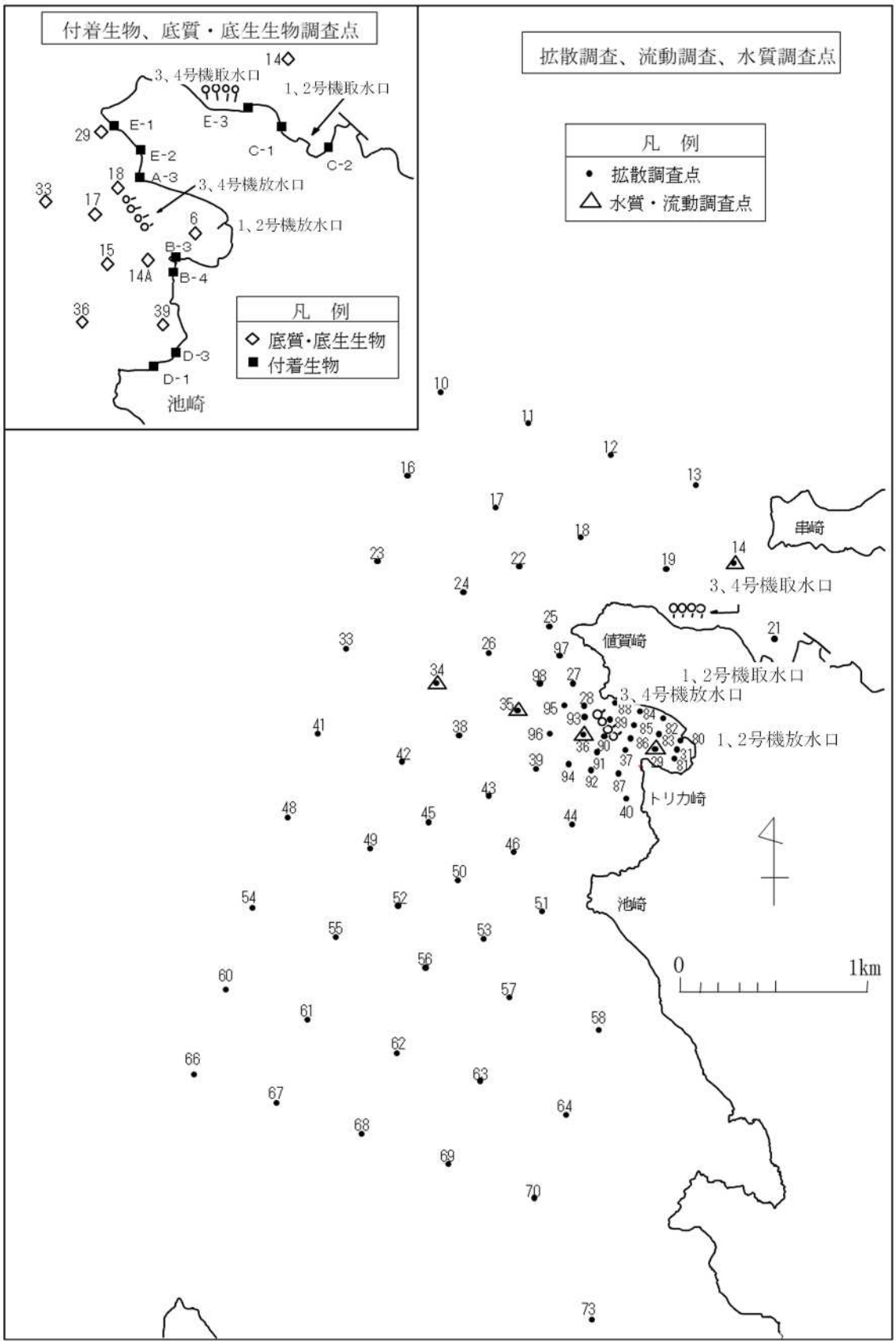

付着生物、底質・底生生物調査点
3、4号機取水口
1、2号機取水口
E-1
E-3
E-2
C-1
C-2
A-3
3、4号機放水口
1、2号機放水口
B-3
B-4
D-3
D-1
池崎
凡　例
底質・底生生物
付着生物
拡散調査、流動調査、水質調査点
凡　例
拡散調査点
水質・流動調査点
串崎
3、4号機取水口
値賀崎
1、2号機取水口
3、4号機放水口
1、2号機放水口
トリカ崎
池崎
0
1km

図1　調査点図

令和 6 年度温排水影響調査結果

玄海原子力発電所から放出される温排水が、周辺の環境及び海洋生物に及ぼす影響を把握するため調査を実施した。

令和 6 年度調査時の発電所の稼働状況については、夏季調査時には 3、4 号機ともに稼働していた。1、2 号機は運転を終了しており、廃止措置中である。

なお、1、2 号機は表層放水方式、3、4 号機は水中放水方式である。

1. 拡散調査

夏季（7 月 18 日）の下げ潮時と上げ潮時の水深 1m層における水温の水平分布を図 2-1～2、水温鉛直分布調査ラインにおける鉛直分布を図 3-1～2 に示した。水平分布を見ると、水深 1mにおける水温は 25.7～27.2℃の範囲で、温排水の影響によって取水水温と比較し 1℃以上昇温した地点は、確認されなかった。また、鉛直分布を見ると、取水水温と比較し 1℃以上の昇温が下げ潮時に St.90 の 14m および 16m 層で、上げ潮時に St.90 の 11～13m 層および St.29 の表層で確認されたものの、範囲は限定的であった。

冬季（3 月 12 日）の水温の水平分布を図 2-3～4、鉛直分布を図 3-3～4 に示した。水平分布を見ると、水深 1mにおける水温は 12.7～14.2℃の範囲で、温排水の影響によって取水水温と比較し 1℃以上昇温した地点は、上げ潮時に放水口周辺の 2 地点で確認されたものの、範囲は限定的であった。また、鉛直分布を見ると、取水水温と比較し 1℃以上の昇温が下げ潮時に St.90 の 12～13m層にかけて確認されたものの、範囲は限定的であった。

2. 流動調査

夏季（8 月 7 日）に実施した調査結果を表 3、図 4 に示した。St.36 では主に西～北西及び北東向きの 5～60cm/s の流れ、その他の調査点では主に西～北西及び北東～東南東向きの 5～40cm/s の流れが確認され、過去の変動の範囲内であった。

3. 水質調査

夏季（9 月 3 日）に実施した調査結果を表 4-1、図 5-1 に示した。夏季の各項目の測定範囲は、水温：22.1～26.3℃、pH：8.18～8.35、DO：5.87～8.09mg/L、濁度：0.4～1.2 mg/L、クロロフィル-a：0.41～3.47μg/L であり、過去の変動の範囲内であった。

冬季（2 月 15 日）に実施した調査結果を表 4-2、図 5-2 に示した。冬季の各項目の測定範囲は、水温：12.2～13.1℃、pH：8.14～8.36、DO：8.36～8.56mg/L、濁度：0.1～0.4mg/L、クロロフィル-a：0.73～1.20μg/L であり、過去の変動の範囲内であった。

4. 底質・底生生物調査

夏季（8 月 26 日）に実施した底質調査結果を表 5 に、COD の経年変化を図 6 に、底生

生物調査結果を図 7 に示した。

底質の中央粒径は 0.2～0.6mm、COD は 1.2～4.1mg/g 乾泥の範囲であった。また、底生生物は環形動物（多毛類）のゴカイ類、節足動物（甲殻類）のソコエビ類やヨコエビ類が多くの地点で確認され、過去の出現傾向と同様であった。

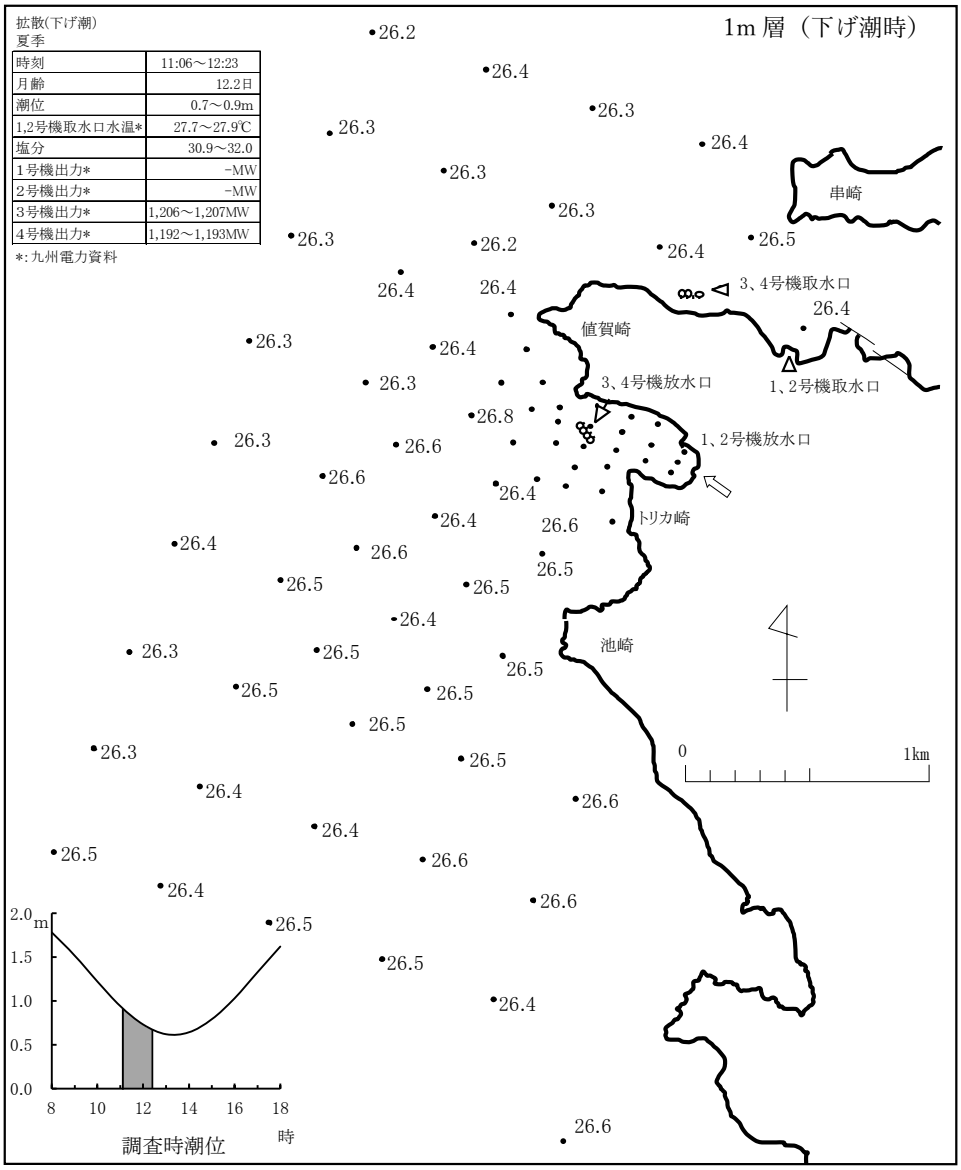
5. 付着生物調査

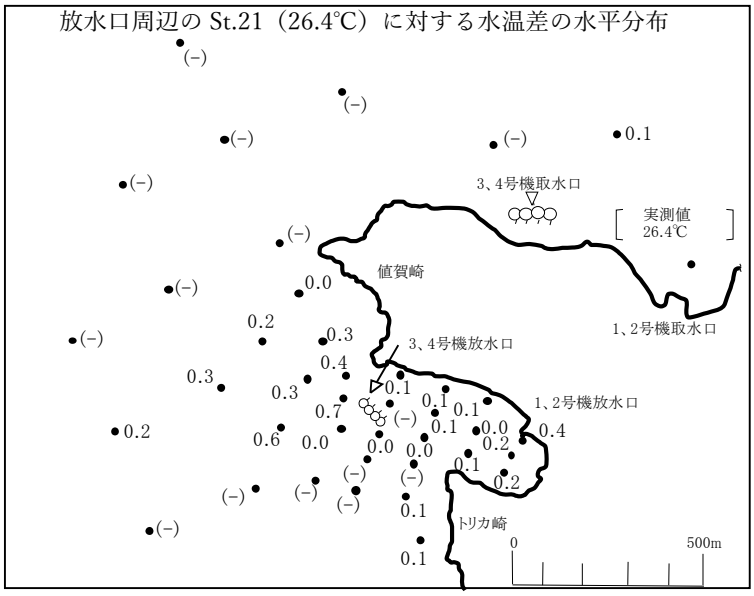
夏季（7 月 19 日、20 日、21 日、8 月 17 日）に実施した調査結果を表 6-1、図 8-1 に、冬季（1 月 30 日、31 日、2 月 1 日、15 日）に実施した調査結果を表 6-2、図 8-2 に示した。動物では巻貝類のタマキビ類、甲殻類のフジツボ類が多くの地点で確認された。また、植物では褐藻類のヒジキ、紅藻類のサンゴモ類が多くの地点で確認され、過去の出現傾向と同様であった。

6. まとめ

令和 6 年度の拡散調査では、夏季及び冬季調査時に取水水温と比較し 1℃以上の昇温が放水口周辺で確認されたものの、範囲は限定的であった。

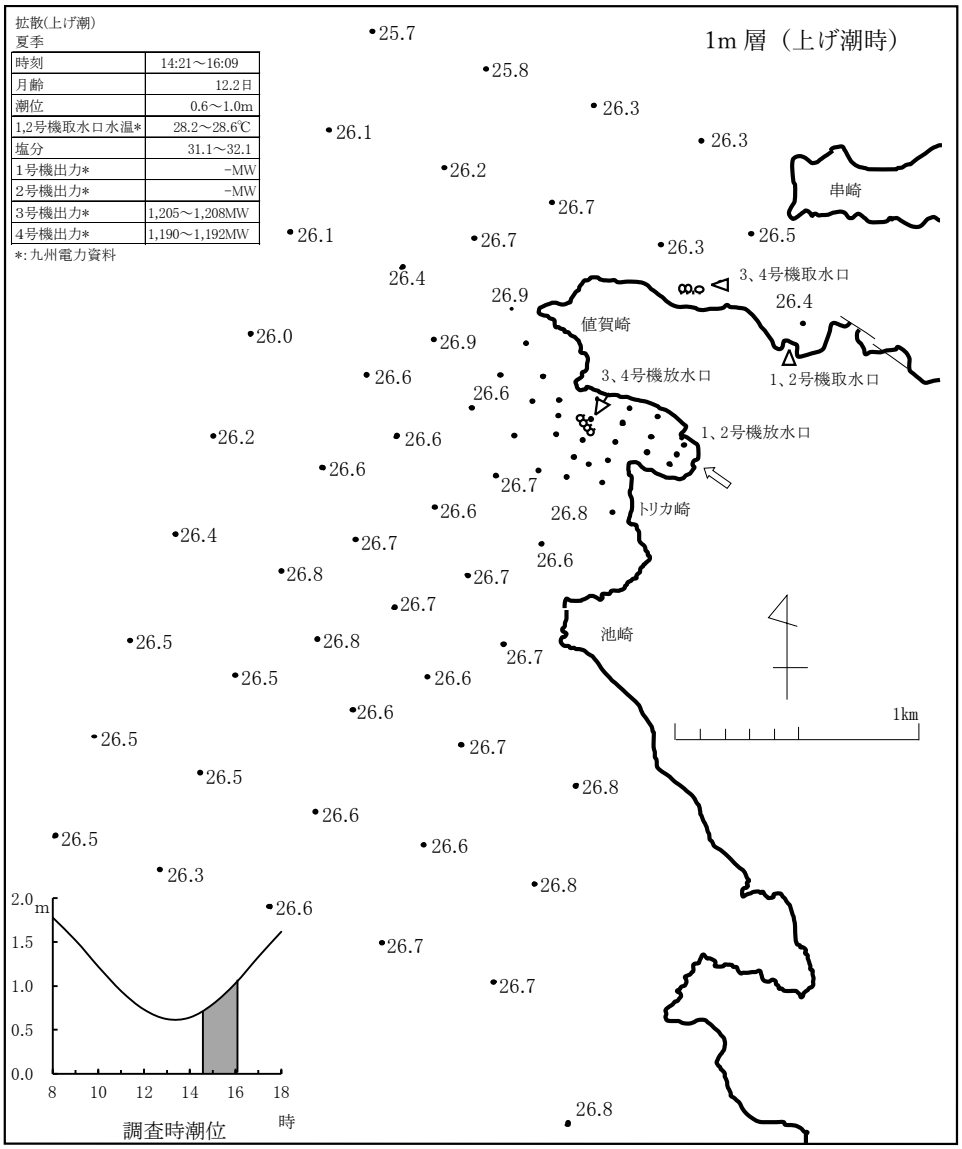
流動・水質・底質・底生生物・付着生物の調査結果は、過去の変動の範囲内であった。

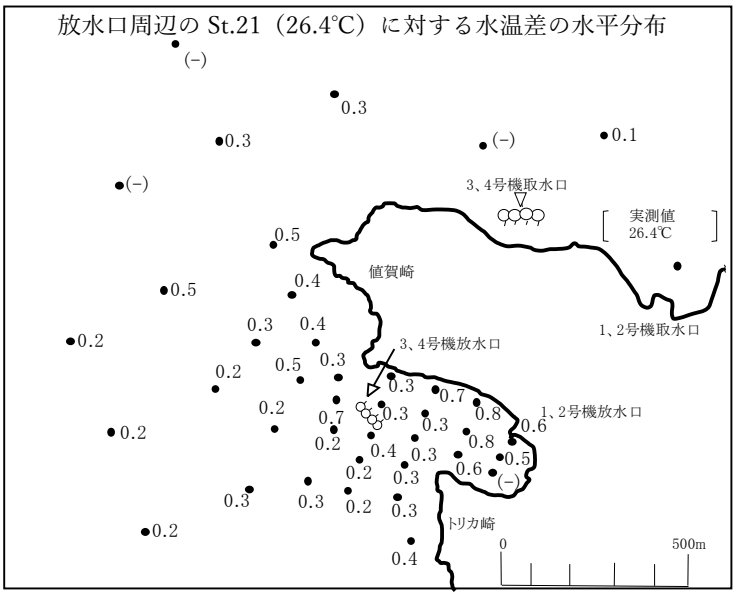




(−):取水口付近(St.21)に対し、低い水温が観測された地点を示す

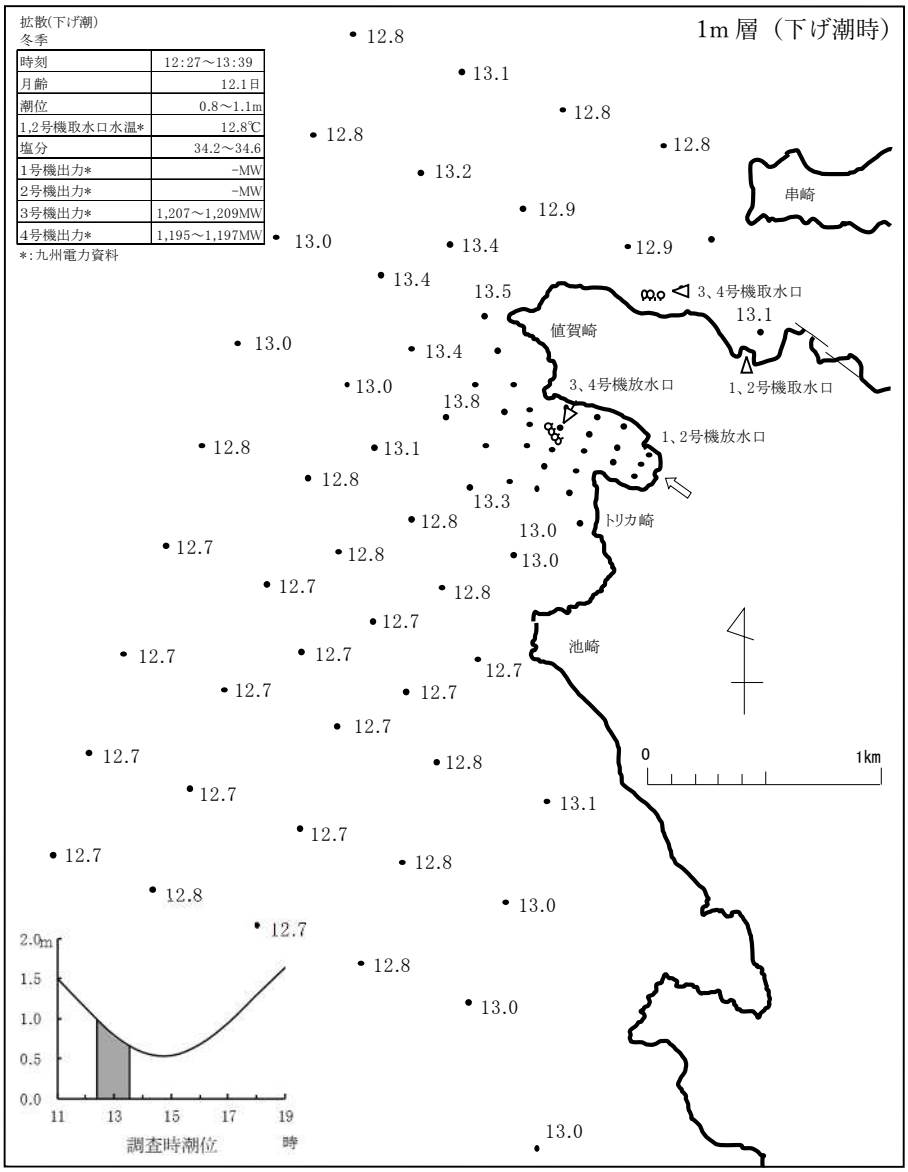
図 2-1 夏季調査の下げ潮時における水深 1m 層の水温分布(上段)および放水口周辺の水温差分布(下段)

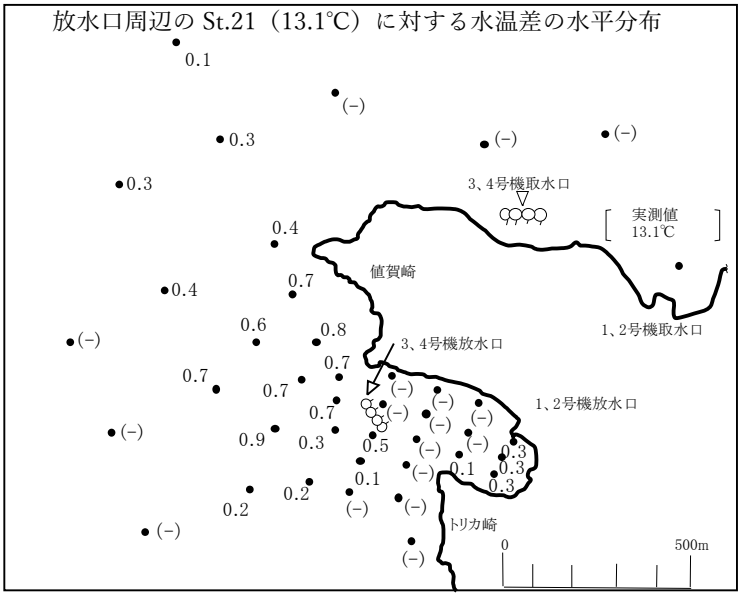




(−):取水口付近(St.21)に対し、低い水温が観測された地点を示す

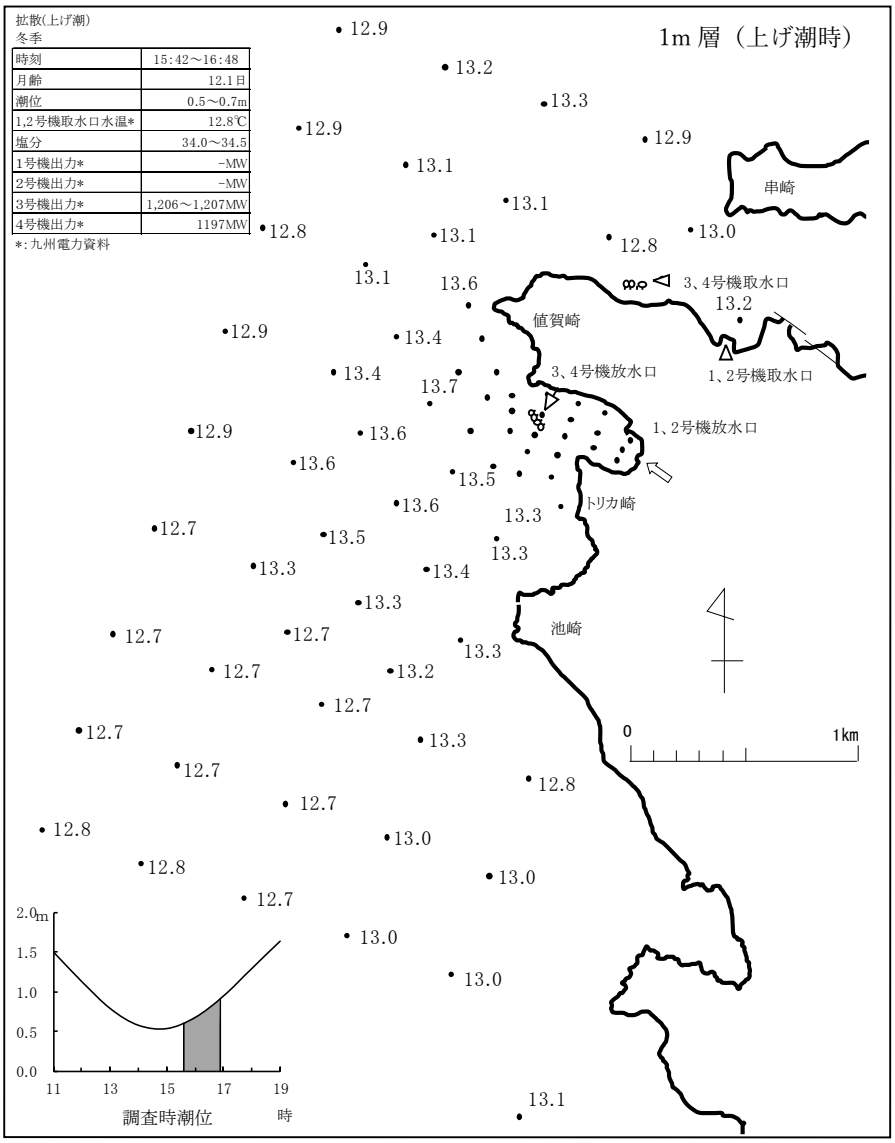
図 2-2 夏季調査の上げ潮時における水深 1m 層の水温分布(上段)および放水口周辺の水温差分布(下段)

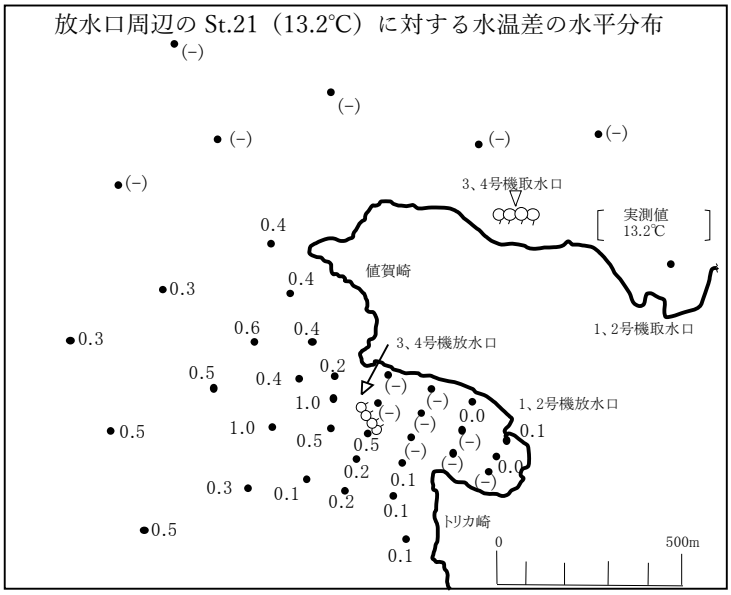




(-):取水口付近(St.21)に対し、低い水温が観測された地点を示す

図 2-3 冬季調査の下げ潮時における水深 1m 層の水温分布(上段)および放水口周辺の水温差分布(下段)





(−):取水口付近(St.21)に対し、低い水温が観測された地点を示す

図 2-4 冬季調査の上げ潮時における水深 1m 層の水温分布(上段)および放水口周辺の水温差分布(下段)

取水水温からの昇温値による色分け

0.01未満	…	
0.01～0.50	…	
0.51～0.99	…	
1.00以上	…	

－ :取水水温に対し、低い水温が観測された地点

(m) \ (st)	33	34	35	36	90	86	29	31
0	－	－	0.35	0.04	0.01	0.01	0.22	0.49
1	－	－	0.32	0.02	0.01	0.01	0.06	0.20
2	－	－	0.23	0.01	－	0.01	－	0.00
3	－	－	0.12	0.03	－	0.00	－	－
4	－	－	0.11	0.12	－	－	－	－
5	－	－	0.10	0.03	－	－	－	－
6	－	－	0.03	－	－	－	－	－
7	－	－	0.07	0.07	－	－		
8	－	－	0.03	0.03	－	－		
9	－	－	－	0.04	－	－		
10	－	－	－	0.24	－	－		
11	－	－	－	0.48	－	－		
12	－	－	－	0.38	－			
13	－	－	－	0.29	0.93			
14	－	－	－	－	1.06			
15	－	－	－	－	0.21			
16	－	－	－	－	1.54			
17	－	－	－	－	0.50			
18	－		－	－				
19			－	－				
20			－	－				

1,2号機 放水口 (表層放水)

3,4号機 放水口 (水中放水)

図 3-1 夏季下げ潮時における水温差の鉛直分布

(m) \ (st)	33	34	35	36	90	86	29	31
0	－	0.24	0.27	0.26	0.49	0.43	1.03	0.66
1	－	0.24	0.23	0.25	0.42	0.33	0.56	0.51
2	－	0.23	0.22	0.12	0.38	0.18	0.26	0.42
3	－	0.24	0.22	0.13	0.49	0.17	0.22	0.26
4	－	0.22	0.25	0.19	0.53	0.17	0.21	0.24
5	－	－	0.24	0.08	0.51	0.14	0.21	0.23
6	－	－	0.25	0.09	0.54	0.04	0.21	0.23
7	－	－	0.13	0.12	0.63	－	0.20	0.19
8	－	－	0.07	0.05	0.54	－	0.20	
9	－	－	－	－	0.45	－		
10	－	－	－	－	0.37	－		
11	－	－	－	－	1.22			
12	－	－	－	－	1.11			
13	－	－	－	－	1.14			
14	－	－	－	－	0.39			
15	－	－	－	－	0.32			
16	－	－	－	－	－			
17	－	－	－	－	－			
18	－	－	－	－				
19	－	－	－	－				
20	－	－	－	－				

1,2号機 放水口 (表層放水)

3,4号機 放水口 (水中放水)

図 3-2 夏季上げ潮時における水温差の鉛直分布

取水水温からの昇温値による色分け

0.01未満	…	
0.01～0.50	…	
0.51～0.99	…	
1.00以上	…	

－ :取水水温に対し、低い水温が観測された地点

(m) \ (st)	33	34	35	36	90	86	29	31
0	0.00	0.01	0.84	0.38	0.94	－	0.07	0.32
1	－	－	0.73	0.35	0.51	－	0.06	0.33
2	－	－	0.74	0.35	0.46	－	0.04	0.11
3	－	－	0.60	0.34	0.57	－	－	－
4	－	－	0.51	0.28	0.86	－	－	－
5	－	－	0.50	0.18	0.89	－	－	－
6	－	－	0.52	0.18	0.71	－	－	－
7	－	－	0.49	0.28	0.82	－	－	－
8	－	－	0.47	0.32	0.75	－	－	
9	－	－	0.42	0.21	0.56	－		
10	－	－	0.30	0.19	0.69	－		
11		－	0.30	0.21	0.68			
12		－	0.40	0.09	1.11			
13		－	0.34	0.16	1.01			
14		－	0.28	－	0.97			
15		－	0.34	－	0.66			
16		－	0.25	－	0.03			
17		－	－	－	0.03			
18		－	－	－				
19		－	－	－				
20			－	－				

1,2号機 放水口 (表層放水)

3,4号機 放水口 (水中放水)

図 3-3 冬季下げ潮時における水温差の鉛直分布

(m) \ (st)	33	34	35	36	90	86	29	31
0	－	0.27	0.50	0.52	0.61	－	0.01	0.11
1	－	0.26	0.50	0.51	0.49	－	－	0.05
2	－	0.11	0.50	0.52	0.47	－	－	－
3	－	0.08	0.50	0.47	0.25	－	－	－
4	－	0.05	0.51	0.50	0.29	－	－	－
5	－	0.04	0.49	0.55	－	－	－	－
6	－	－	0.48	0.64	0.10	－	－	－
7	－	－	0.47	0.76	0.14	－	－	－
8	－	－	0.41	0.29	0.26	－		
9	－	－	0.39	0.26	0.25	－		
10	－	－	0.23	0.22	－	－		
11		－	0.23	－	－			
12		－	0.20	－	－			
13		－	0.21	－	－			
14		－	0.21	－	－			
15		－	0.21	－	－			
16		－	0.21	－	－			
17		－	0.20	－	－			
18		－	0.16	－	－			
19		－	－	－	－			
20		－	－	－				

1,2号機 放水口 (表層放水)

3,4号機 放水口 (水中放水)

図 3-4 冬季上げ潮時における水温差の鉛直分布

表 3　夏季流動(流向・流速)調査結果

令和6年8月7日(月齢2.7日)

調 査 回 次		1回目		2回目		3回目		4回目	
調 査 時 間		10:51～11:30		12:21～13:00		13:51～14:30		15:21～15:56	
調査点	観測層	流 速 (cm/s)	流 向 (度)	流 速 (cm/s)	流 向 (度)	流 速 (cm/s)	流 向 (度)	流 速 (cm/s)	流 向 (度)
St.14	表層	10	140	5	280	25	160	20	330
	5m	15	110	20	280	10	340	20	300
	10m	20	80	25	290	15	150	25	290
	底層	5	240	10	90	20	310	15	110
St.34	表層	15	80	10	260	15	10	10	330
	5m	25	350	30	350	15	140	20	280
	10m	40	330	40	330	25	320	30	180
	底層	25	330	20	30	15	170	10	330
St.35	表層	10	150	30	290	15	290	30	50
	5m	20	280	25	290	35	40	35	40
	10m	25	300	25	330	35	20	35	70
	底層	15	320	15	50	30	70	25	50
St.36	表層	60	260	15	270	15	160	5	60
	5m	40	290	10	50	15	120	15	150
	10m	20	320	5	280	15	280	5	310
	底層	10	350	10	310	25	110	15	330
St.29	表層	15	130	10	280	15	140	25	20
	5m	5	210	15	130	10	40	15	110
	10m	10	20	5	160	10	310	15	320
	底層	5	290	10	300	5	290	10	130

九州電力資料		1回目	2回目	3回目	4回目
風向・風速(m/s)		NE～NNE・3.3～3.5	N・3.4	NNE・4.3～5.5	NNE・5.1
出力 (MW)	1号機	－	－	－	－
	2号機	－	－	－	－
	3号機	1,203～1,204	1,203	1,203～1,204	1,204
	4号機	1,187～1,188	1,189	1,190～1,191	1,190
1～4号機の合計放水量(1時間あたり平均値)			165.4 m^3/s		

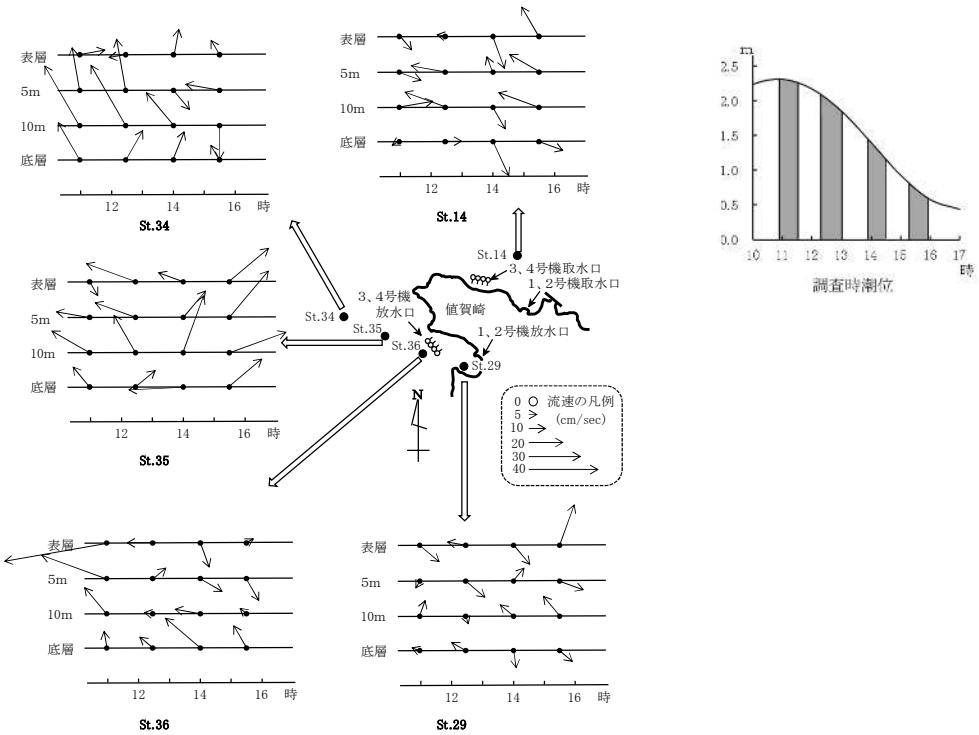


図 4　夏季流動(流向・流速)調査結果

表 4-1 夏季水質調査結果

（令和6年9月3日）

項目＼調査点	取水口側 St.14 (1、2号機 取水口付近)	放水口側 St.29 (1、2号機 放水口付近)	St.36 (3、4号機 放水口付近)	St.35 (3、4号機 放水口沖)	St.34 (3、4号機 放水口沖)
水温 (℃)	23.1 ～ 25.3	23.8 ～ 26.1	22.8 ～ 25.8	22.4 ～ 25.7	22.1 ～ 26.3
pH	8.22 ～ 8.24	8.25 ～ 8.30	8.20 ～ 8.26	8.18 ～ 8.28	8.18 ～ 8.35
DO (mg/L)	6.06 ～ 7.11	6.37 ～ 7.92	6.11 ～ 7.44	5.87 ～ 7.70	5.96 ～ 8.09
濁度 (mg/L)	0.4 ～ 0.8	0.5 ～ 0.9	0.5 ～ 0.7	0.5 ～ 0.8	0.5 ～ 1.2
ｸﾛﾛﾌｨﾙ-a (μg/L)	0.41 ～ 1.94	1.70 ～ 2.43	0.95 ～ 3.14	0.44 ～ 3.47	1.25 ～ 2.52
水深(m)	22	19	27	31	42

表示は、0.3(表層),5,10,B-1(底層)mの測定値の範囲〔最低～最高〕を示す。

取水口側 St.14　　放水口側 St.36

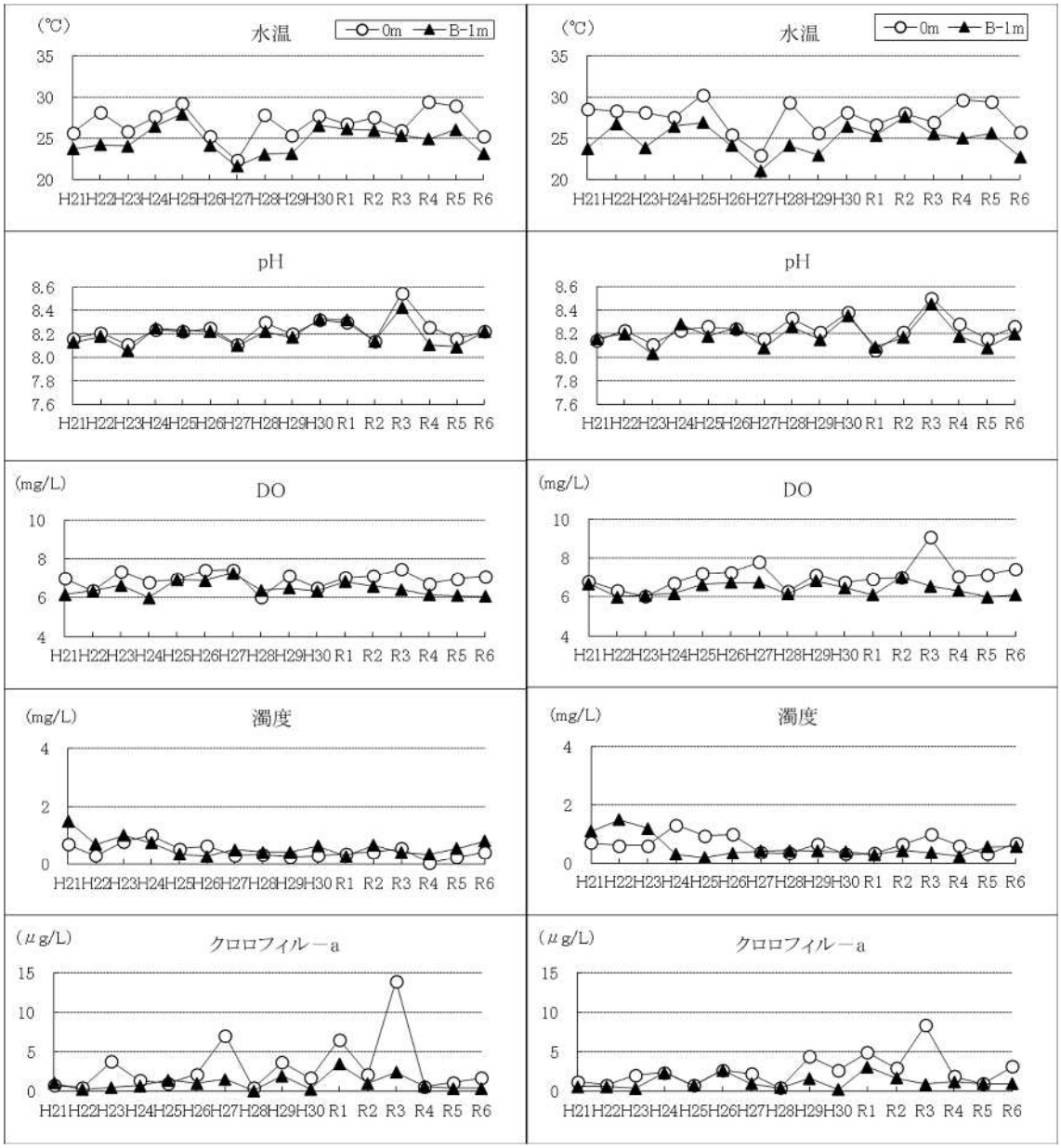


図 5-1 夏季水質調査の経年変化

表 4-2 冬季水質調査結果

（令和7年2月15日）

項目＼調査点	取水口側 St.14（1、2号機 取水口付近）	放水口側 St.29（1、2号機 放水口付近）	放水口側 St.36（3、4号機 放水口付近）	放水口側 St.35（3、4号機 放水口沖）	放水口側 St.34（3、4号機 放水口沖）
水温 （℃）	12.2 ～ 12.4	12.4 ～ 12.4	12.3 ～ 12.6	12.2 ～ 12.4	12.3 ～ 13.1
pH	8.14 ～ 8.20	8.22 ～ 8.24	8.18 ～ 8.32	8.14 ～ 8.19	8.17 ～ 8.36
DO （mg/L）	8.39 ～ 8.50	8.46 ～ 8.56	8.37 ～ 8.42	8.36 ～ 8.41	8.38 ～ 8.42
濁度 （mg/L）	0.2 ～ 0.2	0.1 ～ 0.3	0.2 ～ 0.4	0.2 ～ 0.2	0.2 ～ 0.2
ｸﾛﾛﾌｨﾙ-a （μg/L）	0.73 ～ 0.85	0.51 ～ 0.73	0.85 ～ 0.97	0.73 ～ 1.20	0.47 ～ 1.17
水深(m)	22	9	24	31	41

表示は、0.3（表層）,5,10,B-1(底層)mの測定値の範囲〔最低～最高〕を示す。

取水口側 St.14　　放水口側 St.36

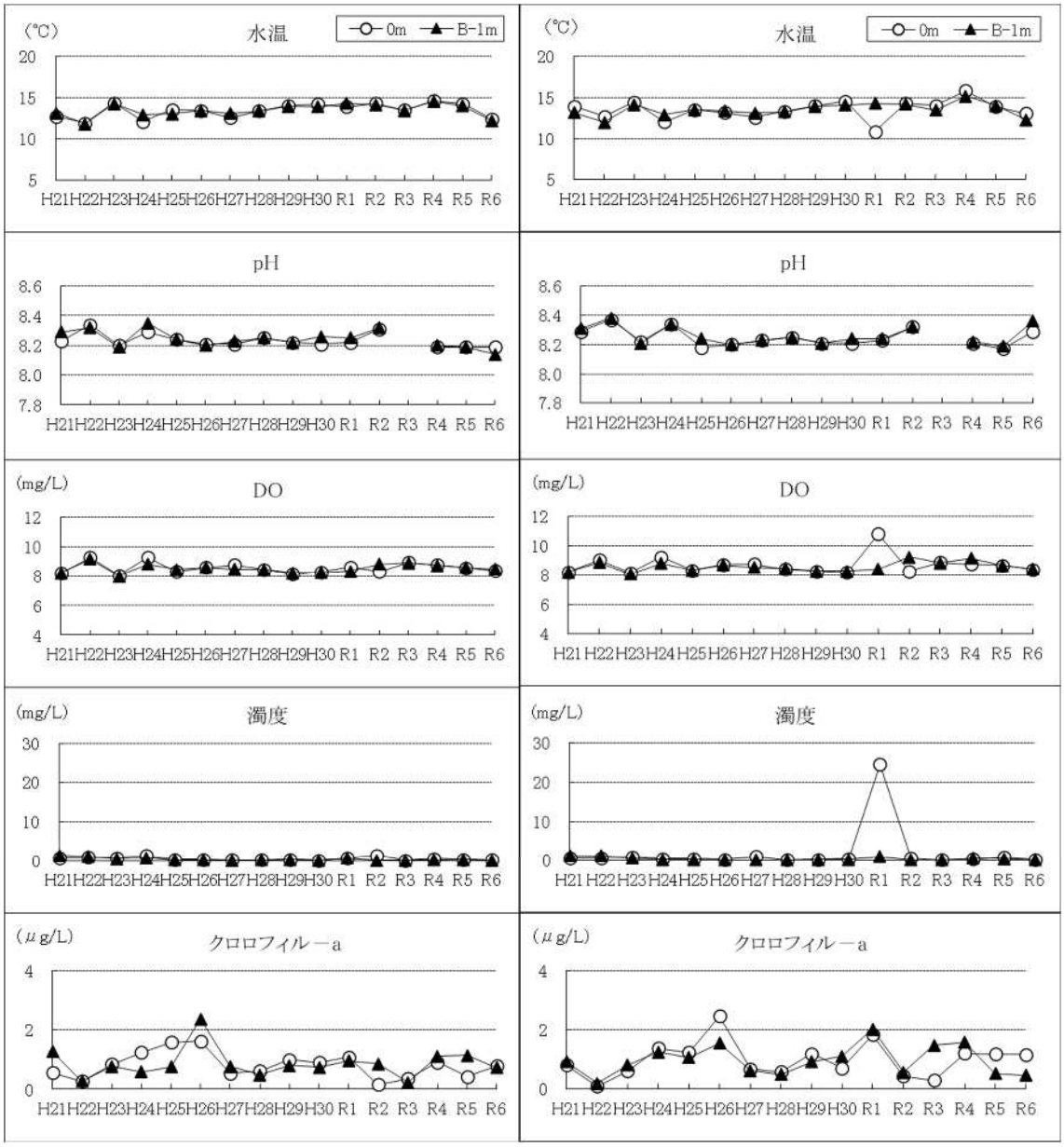


図 5-2 冬季水質調査の経年変化

※R3 のpH については、機器に不具合があることが判明したため、冬季の値は採用しない。

表 5　夏季底質調査結果

（令和6年8月26日）

調査点(St.)		取水口側	放水口側								
		14	6	14A	15	17	18	29	33	36	39
COD(mg／g乾泥)		2.5	1.2	1.4	4.1	3.3	1.8	2.2	3.0	4.1	1.6
粒度組成(%)	礫（2mm以上）	5	0	0	2	4	1	6	3	2	5
	粗 砂（2～0.425mm）	27	4	5	26	20	17	48	25	15	56
	細 砂（0.425～0.075mm）	49	80	80	50	54	67	30	53	57	23
	シルト・粘土（0.075mm以下）	19	16	15	22	22	15	16	19	26	16
中 央 粒 径(mm)		0.3	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.5	0.2	0.2	0.6

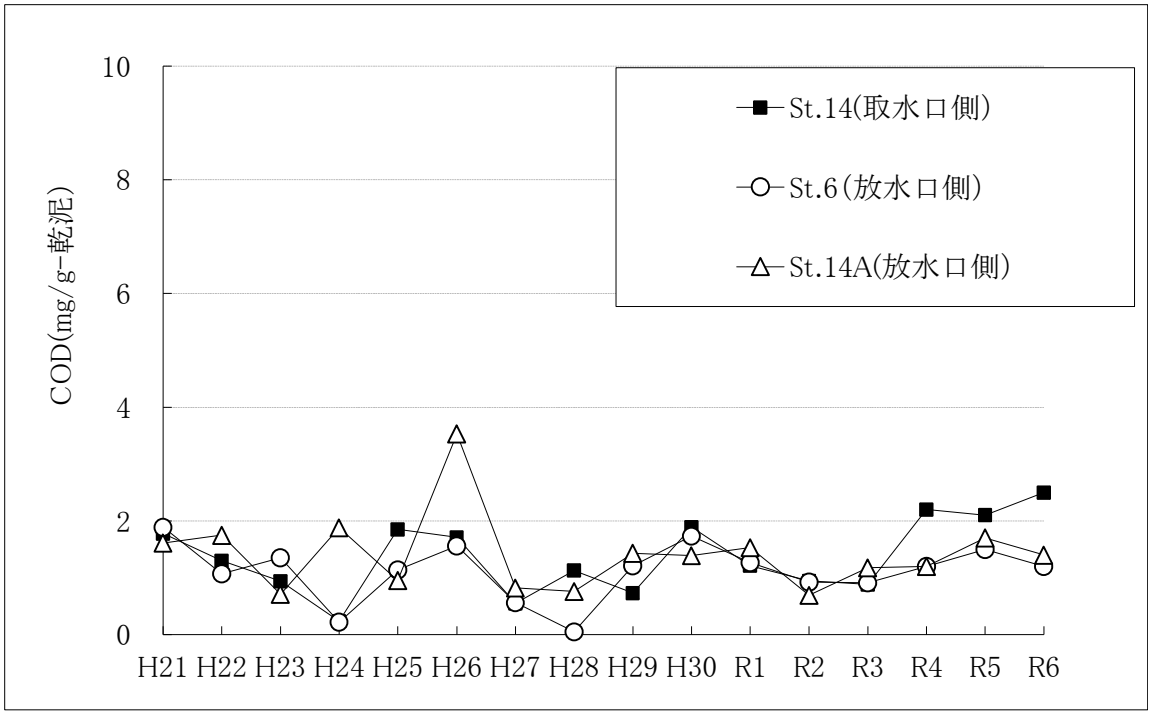


図 6　夏季底質 COD の経年変化

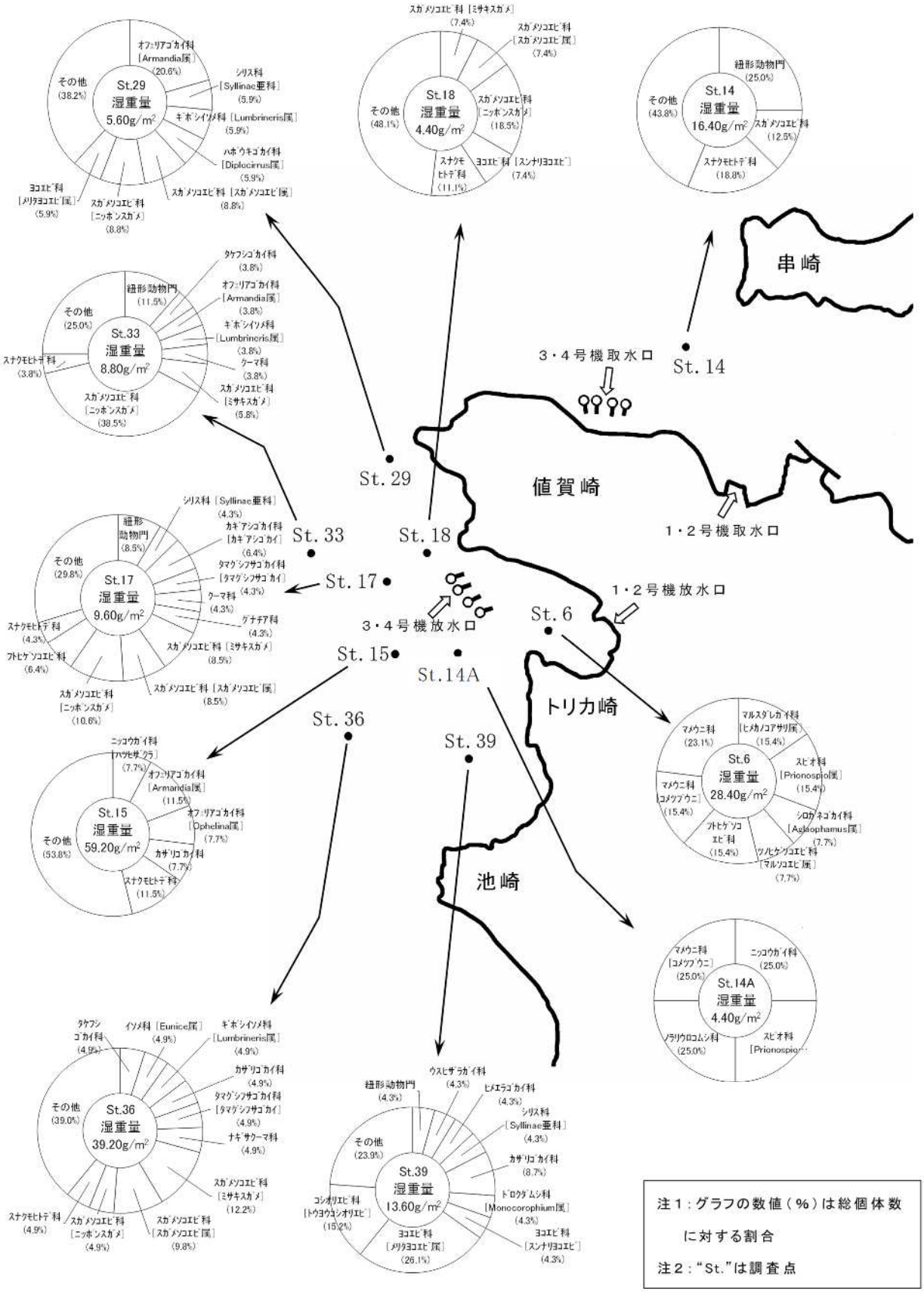


図 7　夏季底生生物調査（令和 6 年 8 月 26 日）

表 6-1 夏季付着生物調査結果

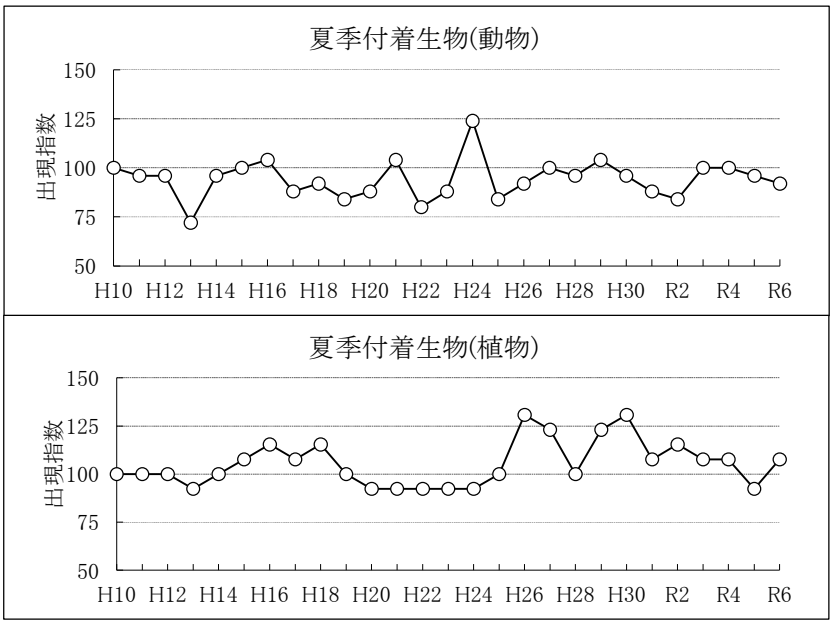
潮間帯付近の動物　　調査年月日：令和6年7月19日、20日、21日、8月17日

種類					調査側線									
					A-3	B-3	B-4	C-1	C-2	D-1	D-3	E-1	E-2	E-3
刺胞動物門	花虫綱	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目		ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目	c		r	r						
軟体動物門	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ綱	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ目	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	r	r	r	c	r	r			r	r
			ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科				r		r		r		
	ﾏｷｶﾞｲ綱	ｵｷﾅｴﾋﾞｽ目	ﾂﾀﾉﾊ科	ﾍﾞｯｺｳｻﾞﾗ		r						c		
				ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ		r	r	r		r	c	c		
				ﾖﾒｶﾞｶｻ		r		c	r	r		cc		r
			ﾕｷﾉｶｻ科	ｳﾉｱｼ	r	r			c		r			r
				ｼﾛｶﾞｲ属						r	r	c	r	r
				ｱｵｶﾞｲ属						c	c			
			ﾆｼｷｳｽﾞ科	ｲｼﾀﾞﾀﾐ						r	r	c		
				ｸﾋﾞﾚｸﾛﾂﾞｹ						r				
				ｸﾎﾞｶﾞｲ								c		
				ｸﾏﾉｺｶﾞｲ							r			
			ﾘｭｳﾃﾝ科	ｻｻﾞｴ	r			r				r		
				ｽｶﾞｲ				r				c	r	
			ｱﾏｵﾌﾞﾈ科	ｱﾏｶﾞｲ							c		c	
		ﾆﾅ目	ﾀﾏｷﾋﾞｶﾞｲ科	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	cc	cc	cc	c	c	c	cc	cc	cc	r
				ｺﾋﾞﾄｳﾗｳｽﾞ									r	
				ﾀﾏｷﾋﾞｶﾞｲ科	r			c			c		c	
			ﾑｶﾃﾞｶﾞｲ科	ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ		r				r	r			
		ﾊﾞｲ目	ｱｹｶﾞｲ科	ﾚｲｼｶﾞｲ	r	r		r						
				ｲﾎﾞﾆｼ	c	r	c	r	r	r	r	c		r
			ｴｿﾞﾊﾞｲ科	ｲｿﾆﾅ				r		r	r	c		
	ﾆﾏｲｶﾞｲ綱	ｲｶﾞｲ目	ｲｶﾞｲ科	ﾑﾗｻｷｲﾝｺ （被度%）	r	cc	cc	cc	r	r	r		r	r
		ｳｸﾞｲｽｶﾞｲ目	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科	ｹｶﾞｷ	r			cc	cc			c	c	r
		ﾊﾏｸﾞﾘ目	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ科	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ科								c		
環形動物門	ｺﾞｶｲ綱	ｹﾔﾘ目	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科	ﾔｯｺｶﾝｻﾞｼ （被度%）	r	r		r		r	r	r	r	r
節足動物門	甲殻綱	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ目	ﾐｮｳｶﾞｶﾞｲ科	ｶﾒﾉﾃ （被度%）		c	c	r	r	r	r	r	c	r
			ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ科	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ （被度%）	cc	r	r			r		r	r	r
			ﾌｼﾞﾂﾎﾞ科	ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ （被度%）	cc	cc	cc	r	r			cc	r	r
棘皮動物門	ｳﾆ綱	ﾎﾝｳﾆ目	ﾅｶﾞｳﾆ科	ﾑﾗｻｷｳﾆ	r	c	r	c		r		c		

潮間帯付近の植物　　調査年月日：令和6年7月19日、20日、21日、8月17日

種類					調査側線									
					A-3	B-3	B-4	C-1	C-2	D-1	D-3	E-1	E-2	E-3
緑藻植物門	緑藻綱	ｱｵｻ目	ｱｵｻ科	ｱｵｻ属	r								r	r
褐藻植物門	同形世代綱	ｱﾐｼﾞｸﾞｻ目	ｱﾐｼﾞｸﾞｻ科	ｳﾐｳﾁﾜ属						r				
				ｱﾐｼﾞｸﾞｻ科				r		r		r		r
	異形世代綱	ﾅｶﾞﾏﾂﾓ目	ｲｼｹﾞ科	ｲｼｹﾞ	r				r	r		c	r	r
		ﾊﾊﾞﾓﾄﾞｷ目	ｺﾓﾝﾌﾞｸﾛ科	ｲﾜﾋｹﾞ	r					r			r	
			ｶﾔﾓﾉﾘ科	ﾌｸﾛﾉﾘ						r				
	円胞子綱	ﾋﾊﾞﾏﾀ目	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ科	ﾋｼﾞｷ	r	c		cc	cc	r		c		r
				ｳﾐﾄﾗﾉｵ	c	r	r	r				r	r	c
				ｲｿﾓｸ						r				
				ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ属						r				
紅藻植物門	真正紅藻綱	ﾃﾝｸﾞｻ目	ﾃﾝｸﾞｻ科	ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ	r	r	r	r	r	r	r		r	r
				ﾃﾝｸﾞｻ科	r			r	r	c	r	r		c
		ｶｸﾚｲﾄ目	ｻﾝｺﾞﾓ科	ｻﾋﾞ亜科	c	c	c	cc	cc	cc	c	cc	r	cc
				ｻﾝｺﾞﾓ亜科	c	c	r	r	c	r		r		r

注1：「r：極少量見られる c：少量見られる cc：普通に見られる ccc：多く見られる」
注2：上表の動物のうち個体数として計測することが困難な種類は被度（%）で測定し、種類の欄に「(被度%)」と記載



出現指数は平成10年度の総出現種類数（動物;25種、植物;13種）を100としている

図 8-1 夏季付着生物の出現指数の経年変化

表 6-2 冬季付着生物調査結果

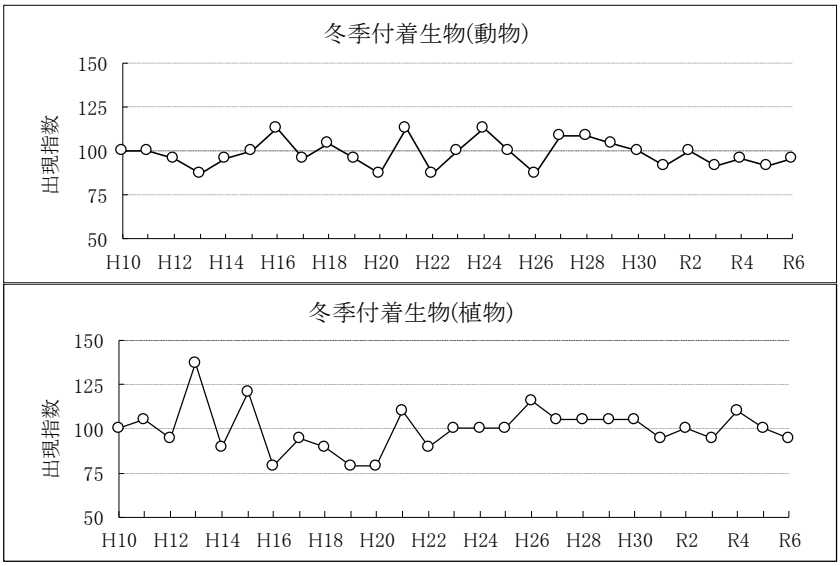
潮間帯付近の動物　　調査年月日：令和7年1月30日、31日、2月1日、15日

種類					調査側線									
					A-3	B-3	B-4	C-1	C-2	D-1	D-3	E-1	E-2	E-3
刺胞動物門	花虫綱	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目		ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目	c	r	r	r		r			r	r
軟体動物門	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ綱	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ目	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	r	r		r				c	r	r
			ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科			r	r	r			r		
	ﾏｷｶﾞｲ綱	ｵｷﾅｴﾋﾞｽ目	ﾂﾀﾉﾊ科	ﾍﾞｯｺｳｻﾞﾗ		r								
				ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ		r		r	c	r	c	r	r	r
				ﾖﾒｶﾞｶｻ	r	r		c	c	c	r	c	r	c
			ﾕｷﾉｶｻ科	ｳﾉｱｼ		r		r	r			r		r
				ｼﾛｶﾞｲ属			r	r	c		r			r
				ｱｵｶﾞｲ属				r	r	c	cc	c		r
			ﾆｼｷｳｽﾞ科	ｲｼﾀﾞﾀﾐ				r		r	r	r		
				ｸﾛｿﾞｹｶﾞｲ							r			
				ｸﾎﾞｶﾞｲ							r			
				ｸﾏﾉｺｶﾞｲ				r		r		r		
			ﾘｭｳﾃﾝ科	ｽｶﾞｲ		r						r	r	
			ｱﾏｵﾌﾞﾈ科	ｱﾏｶﾞｲ							c		r	
		ﾆﾅ目	ﾀﾏｷﾋﾞｶﾞｲ科	ﾀﾏｷﾋﾞ				r	r	r	c	r	c	r
				ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	ccc	c	cc	c	cc	c	c	r	cc	c
				ﾀﾏｷﾋﾞｶﾞｲ科				c					r	c
			ﾑｶﾃﾞｶﾞｲ科	ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ		r				r				
		ﾊﾞｲ目	ｱｹｷｶﾞｲ科	ﾚｲｼｶﾞｲ	r									
			ｱｹｷｶﾞｲ科	ｲﾎﾞﾆｼ	c	r	r	r			r	r	r	r
			ｴｿﾞﾊﾞｲ科	ｲｿﾆﾅ						r				
	ﾆﾏｲｶﾞｲ綱	ｲｶﾞｲ目	ｲｶﾞｲ科	ﾑﾗｻｷｲﾝｺ （被度%）	r	c	cc	cc	r	r	c		r	c
		ｳｸﾞｲｽｶﾞｲ目	ｲｸﾎﾞｶﾞｷ科	ｹｶﾞｷ				cc	cc			r	r	
		ﾊﾏｸﾞﾘ目	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ科	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ科				r				r		r
環形動物門	ｺﾞｶｲ綱	ｹﾔﾘ目	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科	ﾔﾜｺｶﾝｻﾞｼ （被	r	r		r	r	r	r	r	r	r
節足動物門	甲殻綱	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ目	ﾐｮｳｶﾞｶﾞｲ科	ｶﾒﾉﾃ （被度%）	r	c	c	c	r	r	r	r	c	r
			ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ科	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ（被度%）	ccc	r	r			r			r	r
			ﾌｼﾞﾂﾎﾞ科	ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ（被度%）	cc	c	cc	r	r			cc	r	r
棘皮動物門	ｳﾆ綱	ﾎﾝｳﾆ目	ﾅｶﾞｳﾆ科	ﾑﾗｻｷｳﾆ	r	r					r		r	

潮間帯付近の植物　　調査年月日：令和7年1月30日、31日、2月1日、15日

種類					調査側線									
					A-3	B-3	B-4	C-1	C-2	D-1	D-3	E-1	E-2	E-3
緑藻植物門	緑藻綱	ｱｵｻ目	ｱｵｻ科	ｱｵｻ属	r	r		r					r	r
褐藻植物門	同形世代綱	ｱﾐｼﾞｸﾞｻ目	ｱﾐｼﾞｸﾞｻ科	ｳﾐｳﾁﾜ		r								
				ｱﾐｼﾞｸﾞｻ科								r		
	異形世代綱	ﾅｶﾞﾏﾂﾓ目	ﾈﾊﾞﾘﾓ科	ｼﾜﾉｶﾜ		r	r	r	r					r
			ｲｼｹﾞ科	ｲｼｹﾞ	r	r		r	r			c	r	r
				ｲﾛﾛ								r		
		ﾊﾊﾞﾓﾄﾞｷ目	ｺﾓﾝﾌﾞｸﾛ科	ｲﾜﾋｹﾞ	r	r				r	r			
			ｶﾔﾓﾉﾘ科	ﾌｸﾛﾉﾘ						r		r		
				ﾊﾊﾞﾉﾘ類	r	r		r				r		r
	円胞子綱	ﾋﾊﾞﾏﾀ目	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ科	ﾋｼﾞｷ	r	r		c	r	r		r		r
				ｳﾐﾄﾗﾉｵ	r	r	r	r				r	r	r
				ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ属								r		
紅藻植物門	真正紅藻綱	ﾃﾝｸﾞｻ目	ﾃﾝｸﾞｻ科	ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ	r	r	r	r	r	r	r	r	r	r
				ﾃﾝｸﾞｻ科	r		r	r	r	c	r	c		c
		ｶｸﾚｲﾄ目	ｻﾝｺﾞﾓ科	ｻﾋﾞ亜科	c	c	c	cc	cc	cc	c	cc	r	cc
				ｻﾝｺﾞﾓ亜科	c	c	r	r	cc	c		c	r	r
			ﾌﾉﾘ科	ﾌｸﾛﾌﾉﾘ	r			r		r	r	r	r	
		ｲｷﾞｽ目	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ科	ｿｿﾞ属						r		r		

注1：「r：極少量見られる c：少量見られる cc：普通に見られる ccc：多く見られる」
注2：上表の動物のうち個体数として計測することが困難な種類は被度（%）で測定し、種類の欄に「(被度%)」と記載



出現指数は平成10年度の総出現種類数（動物;25種、植物;13種）を100としている

図 8-2 冬季付着生物の出現指数の経年変化